が

# 寝返りをする時期です。

首がすわるようになると、音のする方向に首を動かしたり、動くものをゆっくり目で追ったりするようになり、全身を動かし始めます。やがて寝返りがうてるようになると、腹ばいになって遠くに手をのばそうとしたりします。

この時期の赤ちゃんは、自分では体温調節をうまくできません。健康状態や気候にあわせて、室内の環境、着るもの、かけるものを調節

してあげてください。日頃から、お子さん の首の後ろ部分に手を当て、体温を体 感でわかっていると、体温変化に気づ きやすくなります。



## こんなことに気もつけて

この時期の赤ちゃんは、自分で自分を守ることがほとんどできません。 大切なお子さんのために、安全な環境づくりを考えましょう。

- ▶ 目を離す時は、必ず、柵をあげたベビーベッドなどに寝かせま しょう。
- ▶ ベビーベッドの中や、手の届く範囲に、子どもの口に入る大き さのものは決して置かないこと!!
- ▶車に乗る時は、必ず、正しくチャイルドシートに座らせましょう。 チャイルドシートの設置方法などがわからなかったら、車の販 売店やチャイルドシートのメーカーに問い合わせましょう。

- ★ やわらかい布団や枕は、口や鼻をふさいでしまうこともありますので、要注意。ぬいぐるみなどのおもちゃや、 ヒモ状のものは、ベッドの中やまわりでは使わない、 置かないようにしましょう。
- ★ 寝返りがうてるようになると、動く範囲が急に広がります。目を離す時は、柵をしっかり上まであげたベビーベッドなどに寝かせましょう。床の上では寝返りをうってストーブなどにふれてしまう危険がありますし、ソファやおとな用ベッドでは転落の危険があります。



★ なんでもなめたり、しゃぶったりする時期です。飲み 込めない大きさのおもちゃ、清潔を保てるおもちゃを 用意しましょう。



- ★「車の中でも抱っこしていれば安全」は大間違い!! 衝突などの際に、赤ちゃんが窓を突き破って外に放り 出されてしまうこともあります。必ずチャイルドシートを使ってください。また、車の中の温度は想像以上に早く高温になりますから、赤ちゃんを車内に残していくことは極めて危険です。寒冷地の場合には、凍死や一酸化炭素中毒の危険もあります。
- ★ お子さんを空中に放り上げるような「高い、高~い!」は、落下の危険があります。また、「泣きやまないから」と何度も強く揺さぶったりすると、頭蓋内出血を起こし、深刻な「揺さぶられ症候群」を起こすこともあります。



が

# はいはいする時期です。

一人座りや「はいはい」を始める頃になると、お子さんの生活空間が ぐんと広がります。両手を使えるようになり、目についたものに対して 手と口を使ってふれたり、なめたり、つかんだりし始めます。人見知り

が始まるのもこの頃からです。けれど、 見慣れた人や興味をもったものには自 分から近づいていって、積極的にかか わりをもとうとします。お子さんが見 せる興味を受け入れて、その興味の先 を一緒に楽しんでみてください。

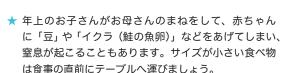


# こんなことに気もつけて

はいはいを始めると、行動範囲が一気に拡大! また、なんでも口に入れてしまう時期でもあります。

- ▶子どものまわりの床、手が届きそうな場所には、子どもが飲み 込めるサイズのものや、タバコ、吸いがらなどは置かないで!
- ▶子どもがひっぱってもずれないように、テーブルクロスはテーブルに固定しましょう。また、テーブルのふちなどに熱いものは置かないこと!
- ▶子どもが入ったら危ない場所(キッチン・階段など)には、柵を取り付けて近寄ることを避けましょう。

★ 生後5ヶ月を過ぎると、赤ちゃんはなんでも□に入れるようになります。場合によっては、窒息したり、飲み込んだものが体内でひっかかったりして、炎症を起こすこともあります。直径4センチ(トイレットペーパーの芯の内側)より小さいものは、床やお子さんの手の届く所には置かないように。タバコや吸いがらも、もちろん子どもの手の届かない場所へ。また、床にはとがったものや鋭いものを決して置かないでください。



- ★「はいはい」は、手の力や脚力を養うためにとても大切な動きです。心身の健やかな成長を促していきます。 バギーやラックに座りっぱなしの状態は避けましょう。
- ★ 身体の安定度が増して自然と「おすわり」を始めるようになっても、不安定な時期は、後ろにひっくり返らないようにクッションなどを使って赤ちゃんのからだを支えてあげましょう。
- ★「こっちへ来ちゃダメ」「入っちゃダメ」と、言葉で伝えても、好奇心いっぱいの赤ちゃんには効果ナシです。 キッチンや階段などには柵を取り付けましょう。ペットを室内で飼っている家庭では、赤ちゃんを床には寝かせないように。赤ちゃんが顔などをかまれる事故も起きています。











が

# 歩き始める時期です。

「つかまり立ち」や「つたい歩き」が始まる頃になると、手や指の動きがどんどん器用になっていきます。扉を開ける、両手にものを持って打ちつける、ひっぱるなどさまざまな動作ができるようになります。

そして、ひとり歩きがしっかりしてくると、またいだり、しゃがんだまま遊んだり、階段をのぼったりと、環境や遊びに「高さ」が加わり始めます。



### こんなことに気もつけて

歩いて動き回れるようになると、お子さんの行動範囲はさらに広がります。それだけに、転んだり、段差から落ちたりといったケガが頻発する 時期です。

- ▶ テーブルの角や家具のとがった部分にはクッション材をつけましょう。ハサミやカッターなど、とがった物は床に置かないで!
  箸、歯ブラシ、ボールペンなど棒状のものは持たせないで!
- ▶ 子どもが食器棚やシンク下の棚を開けて洗剤や薬などを飲んでしまわないように、チャイルドロックをつけましょう。
- ▶ お風呂でおぼれる事故が一番多い時期です。お風呂場にはカギをかけ、残し湯はしないで!
- ▶ おとな用の自転車に乗せる時は、必ずヘルメットを!!

- ★ まだ視野が狭く、身のまわりの危険に気づきにくい時期です。また、からだ全体に比べて頭が大きく、立ち方、歩き方も不安定なので、転んで頭や顔を打ったり、段差や高い所から落ちたりというケガが増えます。家具の角部分などにはクッション材をつけておきましょう。
- ★ 立ちあがれるようになると、おとなが想像するよりもずっと高い所に手が届きます。手にしたり、口に入れたりした際に危険なものは、床から1メートル以上の高さに置くようにしましょう。また、テーブルの端に熱い飲み物などを置くのはやめましょう。
- ★「あんな高い所にはのぼれないはず…」と思っても、子 どもはいろいろなものをつたいながら、高い所にのぼっ ていたりします。窓やベランダ、キッチンの近くには、 子どもの踏み台になりそうなものは置かないようにしましょう。
- ★ お風呂でおぼれると、たとえ命はとりとめても脳に大きな障害を残すことが少なくありません。浴槽にお湯(水)が張ってある時はもちろん、空になっている時も、お風呂場にはカギをかけて、お子さんが入れないように。くれぐれも残し湯をしないでください。







保育者から ひとこと	

が

# 「かみつき」などをし始めることも、また、されることもある時期です。

興味をもったものにさわってみたい、のぞいてみたい、「~してみたい!」気持ちがいっぱいな時期。なのに、「できるはず」と思ったことがなかなかできなくて、かんしゃくを起こすこともあります。"かんしゃく"は、言葉が話せない子どもたちにとっては意思表示のひとつ。表情

や指さしなどの意味も読み取ってあげてください。また、保育園内では、クラスのお友達と自分のしたいことが同じだったり、違ったりで思うようにいかず、トラブルを起こすこともあります。



#### 保育園では

保育園は、子どもたちが共に育ちあう場です。子どもたちの成長過程において、どうしても起こってしまう「かみつき」「ひっかき」に対して、多くの園では、次のように対応しています。

- ▶「かみつき」などを繰り返す子どもには、保育者ができる限り目を配り、子どもたち誰もが十分にのびのび遊べるような環境となるように配慮しています。
- ▶ 時には、「かみつく」「ひっかく」相手が気になる、とても好きという場合もあります。保育者は、クラスの子ども集団全体の様子を見ながら、「かみついてしまう子」「かみつかれてしまう子」双方にとって無理なくかかわり合えるように配慮しています。

#### コラム 子どもの心が育つ時

★ おとなの言うことが理解できるようになり、自分の気持ちや意志を、親しいおとなに伝えたいという欲求が高まる時期です。「指さし」「身振り」などを盛んに使ったり、二語文を話し始めたりします。二語文とは「でんしゃ、きた!」などのように、ふたつの言葉で表現すること。そのようにお子さんが話しかけてきたら、どうぞ、応えてあげてください。



その際には、「そうね、電車が来たね~」と同じ

言葉を繰り返してあげましょう。さらに、「電車が来たね~。早いね~~」というように、何かひとつ加えて応答していくと、子どもの語彙数(表現するための言葉の量)が自然と増えていくといわれています。日頃の親子のかかわりが、子どもの表現力を広げるとてもいい機会となっていくでしょう。

★ この時期は、自分の気持ちを言葉でうまく表現できないために、「手」や「□」が出てしまうことがしばしば起こります。そういった様子を前にしたら、まず、子ども自身が友達やおとなとのかかわりあい(コミュニケーション)に十分満足しているかどうか、様子を見てみましょう。ゆったりした態度でかかわる、場を移す、外に連れ出すなどして、子どもの気分を変えるのもひとつの方法です。やがて、自分の気持ちを自分らしく言葉で表現し、それが「相手に伝わっている」と感じ始めると、「いきなり手が出る!」というような事態は収まっていきます。

保育者から ひとこと	
	•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••

#### 年 月 А

# 行動範囲が広がる時期です。

歩けるようになると、お店や公共の場で、突然、おとなが気づかない ところに行ってしまうこともあります。この時期は、自分が誰とどこに いるのかさえ、まだしっかりと理解できません。マーケットの店内など で、商品に手を出してしまうこともありますが、いたずらしたいからで はなく、子どもらしい好奇心や冒険心が募って手が動いてしまうのです。

一方、保育園への送り迎え、買い物の際な ど、「子ども用シート」を備えた自転車は大 活躍していることでしょう。白転車に乗せて いる時の子どもの状況には十分に注意しま しょう。



### こんなことに気もつけて

おとなの言うことをちゃんと聞いて理解しているように見えても、何か に興味をひかれたら、すぐそちらに向かってしまいます。お子さんは必 ず、「目と手が届く範囲」に!

- ▶ 自転車に乗る時には、子どもには必ずヘルメットをかぶせま しょう。「万が一」の時に大切な頭を守るのが、ヘルメットの 役目です。
- ▶「すぐに戻るから、待っていてね」と、子どもを自転車の子ど も用シートの上に置き去りにすることは絶対にダメ! シート から転落、または自転車ごと転倒する可能性もあります。

★ 道路に出る時、駐車場内を歩く時などは、必ず子どもと手をつないでいましょう。まだ背が低い子どもの姿は、ドライバーからは見えにくいものです。その上、子どもが急に飛び出した場合などには、死亡事故が発生することもあります。



★ 子育て中は、自転車にのせる荷物も多いもの。その場合、お子さんを子ども用シートに乗せる時には、まず荷物をのせて"子どもを最後に"乗せる。降ろす時には"子どもを最初に"降ろすこと! 万が一、自転車が倒れた時に子どもにケガが及ばない順番で乗り降りするようにしましょう。



★ 子どもを保護者一人だけで完全に見守ることはむずかしいのが現実です。公共の場では、まわりのおとな(他人)もなんとなく子どもを見守ってくれていて、子どもに声をかけてくれたり、守ってくれたりすることもあります。また、こちらも見知らぬ子どもを気にかけて、その子どもを助けることもあるかもしれません。「よけいなお世話」などと思わずに、見守られつつ、見守るまなざしも意識しつつ……。子育ては"お互いさま"です。



保育者からひとこと	

が

# 「いやいや!」をし始める時期です。

自分を意識する気持ち(自我)が芽ばえ始め、「ジブンで!」と自己主張し、おとなの言葉に、ひとつひとつ反抗するような場面が多くなります。たとえば、用意された靴下を「イヤ!」などと放り投げることもあるかもしれません。そうした時に、「言うことを聞きなさい!!」と抑

えつけてしまうと、その後、しっかりした 自我(自分が自分らしくいられる気持ち) を子ども自らが育んでいくための意欲が 育ちにくくなることもあります。可能な 範囲で子ども自身に任せつつ、おとなが 手助けしていくようにしていきましょう。



### 子と、もの気持ちとともに

子ども自身が「自分で決めた!」ように話を進めてあげると、思いのほか、素直に受けとめるものです。子どもが味わいたいのは、"主人公は自分"という気持ちです。

- ▶「選んだのは自分!」という気持ちがあってこそ自分で取り組んでいくという意欲が育っていきます。
- ▶公共の場で「イヤダ!!」を連発するような時は、危険がないように見守りつつも、そっとしておくこともひとつの方法です。
- ▶ 必要な時には、きっぱり「ダメなものはダメ!!」。子どもの気持ちを尊重しつつ、社会のありかたも知らせていきましょう。

#### コラム 子どもの心が育つ時

- ★ ただでさえ忙しい朝の時間帯。履かせようと出した靴下を「イヤ!」と放り 投げられたりしたら、おとなのイライラは募るばかりです。 そのようなことがあったら、次の機会には、靴下を2足出して、「どっちを履く?」と問いかけてみましょう。「選んだのは自分!」という実感を味わえると、子どもは満足するもの。その日の気候などに合わせて、おとながあらかじめ選んだ靴下だとしても、自分で選んだ靴下を履けば満たされた気持ちでいっぱいになります。
- ★ マーケットなどで、欲しいものが手に入らない時など、床に転がって「イヤダ、イヤダ!!」と大きな声でわめくようなことがあったら大変! 周囲の人の目も気になり、子どもを抱えて逃げ去りたい気持ちになりますね。ですが、いっそのこと、おとなは腹を据えて子どもを放っておく……これもひとつの手です。意外と子どもはおとなの様子を見ているもの。見守っているよというような表情で見つめていると、子どもの方が自分で

感情の爆発を収めたりもします。

★ そして、子どもの気持ちを尊重しつつも、最後の 最後、「ダメなものはダメ!!」という姿勢を見せる ことも大事です。子どもの心の成長をていねいに 見守りつつ、おとなとして社会のルールもしっか りと伝えていきましょう。



125*41	
保育者から ひとこと	

の

# 活動がぐんぐん活発になり始める時期です。

この時期になると、ジャンプしたり、飛び降りたり、走ったり、動きがますます活発になっていき、歌やリズムに合わせてからだを動かして遊ぶことも楽しめるようになります。いろいろなことに興味をもつ一方で、身のまわりのものを観察し始めるようになる時期でもあります。

また、食事や排せつ、衣服の脱ぎ着など、簡単な生活動作もできるようになり始めます。家の中の環境を少しずつ整え、お子さんが自分でできそうなところは手を出さず、できないことはさりげなく手を貸しま

しょう。そして、なにかができたらほめて、「自分でやろう」「自分でできた」という気持ちを育てていきましょう。



# こんなことに気もつけて

運動機能が著しく発達し、行動する範囲がどんどん広がっていきます。

- ▶ 三輪車遊びの時もヘルメット着用を! 着用せずに転倒した場合、大きなケガを負いかねません。
- ▶ 公園などで遊ぶ時は、ヘルメットをはずしましょう。遊具などにひっかかって窒息する危険があります。
- ▶すべり台、ブランコなど、いろいろな遊具で遊び始める時期です。遊具からの転落も多くなります。公園などで遊ぶ時は、他のおとなとも協力して見守りましょう。そして、子どもにも正しい遊具の使い方を伝えましょう。

★ 全身を使った運動が増えていく時期です。興味をもったこと、「やってみたい」と思ったことに自分から挑戦していくようになりますから、行動に予測がつかなくなっていく時期でもあります。興味をひくものがたくさんある屋外では手をつなぎ、子どもが自由に動きまわれるような場所(公園など)でも、十分に安全確認をしましょう。



- ★ 子どもが転ぶのは当たり前。でも、「靴」の選び方によって転びにくくすることができます。たとえば、長靴やサンダルは足元が不安定なだけでなく、靴底がすべりやすいものです。足の動きをしっかり支えるような靴を履かせましょう。
- ★ 公園などで遊ぶ時は、ヘルメット、カバンなどは必ずからだからはずしてください。遊具などにひっかかって窒息することがあります。ヒモがついているフード付きの服は、必ずヒモをはずしてから着るようにしましょう。
- ★ 公園などの遊具で遊ぶようになると、遊具からの転落だけでなく、ブランコなどの遊具とぶつかったり、他の子どもとぶつかったりするようなことも増えます。他のおとなとも協力して見守るように心がけてください。すべり台の上に複数の子どもが立たないようにする、ブランコのまわりで遊ばない、などもポイントです。



保育者からひとこと	
WE-E	
58	

の

# 手先がどんどん器用になる時期です。

からだのバランス能力が高くなってくると、なわとび、鉄棒など、道 具を使って遊ぶことが増えます。手先が器用になってくるため、ハサミ を使えるようになりますし、お絵かきや粘土など興味があることにじっ くりと取り組み始めることもあるでしょう。

着替えやトイレ、洗顔、歯みがきといった生活習慣は、かなりできるようになってきます。手助けしながら、自分からするようにうながして

いきましょう。また、簡単なお手伝いもできるようになり、年下の弟や妹の世話をする場面も出てくるかもしれません。そのような時こそ、お子さんが力を発揮できるように意識してあげてください。



#### こんなことに気もつけて

子どもの自主性をそこなわないようにしながら、「安全」について教えていきましょう。

- ▶「危ないから」とハサミやナイフを使わせないのは、逆効果。 おとながそばについて、一緒に使いながら、手先や道具を使う 楽しさと安全な使い方を伝えましょう。
- ▶「お母さん、お父さんはシートベルト、自分はチャイルドシート」という「指定席」の意識を育てましょう。

★ ハサミやナイフなどを使えるようになると、いろいろなものを切ったり、削ったりして楽しむことができます。けれど、ハサミやナイフは刃物であり、危険なことには変わりありません。おとながそばについて、安全な使い方を伝えてください。子どもたちは道具を使いながら、危険性も学んでいきます。



★ 子どもは犬や猫が大好きです。でも、怖さを知らないために、手を出しすぎて犬や猫を怒らせてしまうことも少なくありません。近所で飼われているペットに手を出さないよう教えることも大切ですが、家で飼っているペットでも、からだをひっぱったり無理につかんだりしないように、そもそもペットも人間と同じように心がある生き物であることを伝えてください。



★ 自動車の乗車時は、子どもが嫌がっても、チャイルドシートはいつでも使用しなければなりません。チャイルドシートは、子どもの体格に合っているものを選んでください。

「乳児用」は体重 13kg 未満で身長 70cm 以下、「幼児用」は体重  $9 \sim 18$ kg で身長  $65 \sim 100$ cm、「学童用」は体重  $15 \sim 36$ kg で身長 135cm 以下が基準となっています。



保育者からひとこと	
WE E	

か

# 友達と活発に遊び始める時期です。

食事や着替えなどの生活習慣や生活リズムが身につき始める頃です。 子ども同士のかかわりを、日々の遊びを通じて経験し、友達と一緒に 遊ぶ楽しさや他の人との心地よいかかわり方を覚えていきます。

子どもたちは、からだを思いきり使って遊ぶことが大好きです。スキップをしてみたり、補助輪付きの自転車に乗ったり、音楽のリズムに合わせて身体を動かしたり…そんなことが楽しくてしかたない時期です。興味や自発性を大切にして、「やってみよう!」と

いう気持ちを育てましょう。おとなからの励ましや 働きかけがあると、チャレンジする勇気をもっ

ともてるようになります。



おとなのまねをしてみたい時期。危ない行動も少しずつ増えます。

- ▶ 危ない道具(マッチ、ライター、刃物類)は、手の届かない所にしまうだけでなく、興味を持っている様子が見えたら、「危なさ」をきちんと教えましょう。
- ▶「ごっこ遊び」に危険なモノや道具が使われていないか、チェックしましょう。
- ▶ プールや水遊びの時には、おとなは子どもに手が届く範囲にいて、絶対に目を離さない!

- ★ マッチやライターは、子どもの手が届かない所にしまっておきましょう。「わが家では、タバコは誰も吸わないしライターもないから大丈夫」と思っていても、子どもは外で拾って遊んだり、友達の家で遊んだりしているかもしれません。子どもが外から持ち帰るものにも目を配ってください。花火で遊んだり、火を使ったりする時は、必ずおとながそばについていてください。
- ★ 子どもは「○○ごっこ」が大好き。いろいろなものを頭にかぶったり、からだにまとったりして「ごっこ」をしますが、ビニール袋だけは使わせないでください。「これは穴があいているから大丈夫」と思って見過ごしていると、別な機会に、おとなが見ていない所で穴のあいていないビニール袋をかぶってしまうかもしれません。ビニールの袋は絶対にかぶらせない! これが鉄則です。



★ プールや川、海で水遊びをする時は、おとなは必ず子どもに手が届くところにいて絶対に目を離さないでください。また、浮き輪の中には「足入れ付き」のものがありますが、このタイプの浮き輪は、ひっくり返ると自力で起き上がれずにおぼれてしまうこともあります。

	•••••	•••••
		•••••
保育者からひとこと		•••••
26=6		•••••
(7.1)		•••••
		•••••

が

# いろいろチャレンジし始める時期です。

動きがますます活発になり、好奇心旺盛に「これ、してみたい!」という興味がはっきりとしてきます。また、自分自身の体験をもとに、「~したら、こうなる」と物事を予想する力、危ない場面を判断する力もついてきて、見通しを立てて行動することができるようにもなってきます。そして、「…だけれど、〇〇しよう!」というように、自分なりに判断して努力したり、自制するようにもなりますが、同時に、さまざまな癖や「心の杖」となるもの(タオル、人形など)をもつようなこともあり、

何かを支えに自ら育つ力を発揮していく頃だともいえます。

やがて、接続詞など使って、会話を十 分に楽しめるようにもなっていきます。



# こんなことに気もつけて

自分で考え、想像し、判断する力もついてきます。安全についてきちん と説明し、おとなが見本を見せましょう。

- ▶自転車に乗るなら、必ずヘルメットを! 頭部は特に大切です。 傷つけたり、衝撃を与えたりすると、大きな障害すら残しかねません。
- ▶ おとなが乗る自転車後部の「子ども用シート」に子どもを乗せる 時、足を車輪にはさまないように要注意。
- ▶ 自動車に乗る時にはチャイルドシートを。また、身長が 135cm になるまでは、ジュニアシートを使ってシートベルトの着用を。

- ★ この時期、子どもの身体はどんどん成長していきます。 おとなの自転車後部の「子ども用シート」に子どもが 乗った時、足先やかかとが車輪に触れるようになって いたら、走行中の自転車後輪に足を巻き込まれて、大ケ ガをすることがあります。足が車輪に巻き込まれない ようなカバー付きの「子ども用シート」にしましょう。
- ★ 自転車にひとりで乗る練習をし始める時期ですね。ヘルメットは必ずかぶらせてください。頭を打った直後には症状が出なくても、のちに学習障害や行動障害などに似た症状が現れる可能性もあります。特に子どもの場合、自分ひとりで走っている時に、転んで頭を打ってもおとなには話さないかもしれません。ふだんから必ずヘルメットをかぶる習慣をつけることが大切です。けれど、ヘルメットをかぶったまま遊んではいけません。ベルトが遊具などにひっかかり、窒息の危険があります。





★ 自動車乗車時のチャイルドシート使用義務は「6歳未満」です。でも、6歳になったからといって、おとな用のシートベルトで十分というわけではありません。身長135cm以下の子どもがジュニアシートなしでシートベルトをすると、事故などの際、首がひっかかってしまうことがあります。10歳ぐらいまではジュニアシートを使いましょう。

保育者からひとこと	
THE SE	

が

# 自分で考え、意欲的に 行動し始める時期です。

会話能力が高まり、文字や数字への興味もわいてきます。好きなことは吸収も早く、「○○ちゃんができるから、私(僕)もがんばる!」という意欲も芽生える時期です。遊びの中でも自分たちでルールを決め、互いの意見に耳を傾け、他人の気持ちを考えた行動ができるようにな

り、友達のいいところを認めあえるようになっていきます。自信がつき、自分から進んで向きあおうとする意欲がわいてくるようになると、小学校の生活や学習にも積極的に取り組めるようになっていきます。



#### こんなことに気もつけて

いよいよ年長組。園内で一番のお兄さん、お姉さんになります。からだもぐんと成長し、ダイナミックな遊びを楽しめるようになるため、思わぬケガを負うこともあります。

- ▶ 全身運動が滑らかで巧みになり、元気よく跳び回るようになります。ただ、勢い込んで走り回っている時に子ども同士で衝突したり、鉄棒から落下したりする事故などが起こることもあります。
- ▶ 自分で力加減などを調節することがまだまだ難しい時期でもあります。ルールのある遊びなどを楽しみつつ、そのルールや順番を守ることなどを伝えながら、自立心の高まりを促していきましょう。

- ★ 積極的に、全身を動かして戸外での遊びを楽しむうちに、危険への判断力も 徐々についていきます。そういう時期だからこそ、思いきり遊び回れるように、 大きなケガを遠ざけるような環境づくりを心がけていきましょう。また、屋 内では、子どもの手が届く所に刃物やライター・マッチなどを置かない、ベ ランダの柵を乗り越えられないようにするなど、子どもの行動範囲を改めて 見直してみましょう。
- ★ 動きがぐんぐん活発になってくるこの時期は、屋内での思いがけないやけどにも注意してください。元気余って駆け回り、結果、コード類をひっかけて熱湯入りの「電気ケトル」がテーブル上から真っ逆さまに落下して大やけど…という事故も起こっています。
- ★ ルールのある遊びを存分に楽しみ始め、「決まりごと」を意識できるようになります。交通事故を防ぐ「交通ルール」を伝える絶好の機会です。「右側歩行」「横断歩道では手を挙げる」「自転車に乗る時にはヘルメットをかぶる」など、必ず守りたい約束ごとを意識させていきましょう。
- ★ 仲間同士、共に遊ぶことがなにより楽しい時期です。遊びを発展させて、さらに楽しむために自分たちで決まりごとをつくったりします。また、自分たちなりに判断して、批判する力もつき、ケンカを自分たちで解決しようとするなど、社会生活に必要な基本的な力を身につけていきます。



保育者からひとこと	
WE E	
(C.)	
THE STATE OF THE S	
	•••••

### なまえ

渡した日	カードNO.	内容	手渡した担当者
	_	表紙・活用方法 (ニつ折りのカード)	
	_	10ヶ条・発達早見表 (ニつ折りのカード)	
	1	寝返りをする時期 (-枚のカード)	
	2	はいはいする時期 (-枚のカード)	
	3	歩き始める時期 (-枚のカード)	
	4	「かみつき」「ひっかき」 の時期 (-枚のカード)	
	5	行動範囲が広がる時期 (一枚のカード)	
	6	「いやいや!」をし始める時期 (-枚のカード)	
	7	活動がぐんぐん活発になり始める時期 (一枚のカード)	
	8	手先がどんどん器用になる時期 (-枚のカード)	
	9	友達と活発に遊び始める時期 (-枚のカード)	
	10	いろいろチャレンジし始める時期 (-枚のカード)	
	M	自分で考え、意欲的に行動し始める時期	

(一枚のカード)

年月日	記入担当者	
	0 0 0 0 0	
•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
•••••		
•••••	• • • • • • • • • • • • • • • •	
•••••		
•••••		
••••	• • • • • • •	
	• • • • •	
	0 0 0 0 0	
•••••	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
•••••	**************************************	
•••••		
•••••		
•••••	0 0 0 0 0 0 0 0 0	
••••		
••••		
	0 0 0 0 0 0	
•••••	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
•••••	e 	
	•	